

♪5歳児の遊びの様子♪

ゆり組になると、遊びを進める中で“これがしたい！”という思いを実現するために、粘り強さや継続する姿がたくさん見られます。今までの遊びや生活の経験を生かしながら、遊びを進める過程での工夫はもちろんのこと、それまでに築き上げてきた友だちとの支え合い、認め合いがあってこそ豊かになっていくのがゆり組の遊びです。



ダイナミック

砂場に大量の水を運ぶためには…と考え台車を使ったり、ジョーロを台車に乗せたり試行錯誤。みんなで運べば大きな海になるぞ！運んだ水を思い切り流して…「きゃあーーーー」

迫力満点



友だちと目的やイメージを共有して

大人顔負けのビー玉転がし。毎日、作り足してはビー玉を転がし、また修正、の繰り返し。日々、進化し、どんどん精巧になっていく。変化とこだわりを共有しながら継続して楽しめるように



こだわりやリアルさの追求

本物みたいなかき氷屋さん！

絵の具の三原色（赤・青・黄）から「メロン味はどうやったらできるのかな？」と試行錯誤。いつの間にかいろんな味が完成！



仲間と共に競い合い助け合い



コツコツ挑戦



【5歳児の生活 ひとコマエピソード】



年少児のお世話

イタズラ好きの年中
さんを担任が懇々と
諭している所に通り
かかった年長 A くん。
「先生。その位に
してあげなよ。もう
十分わかっていると
思うよ」とポツリ。



卒業アルバムの絵



運動会のダンスを自分たちでつくる

リレーの作戦会議
クラスで走順を決めるときに、アンカーをやりたい子を募ると何人も手が。それを見て、手を下ろそうとする子に担任が「本当にいいの？ やりたいんじゃない？ 自分の気持ち、大事にしなきゃ。」すると他の子が「でも、譲ってあげようとしたんだよね。」するとまた別の子が「自分の気持ちも大事、友だちの気持ちも大事、う～ん、難しい」とポツリ。「う～ん」と唸り声があちこちで聞こえてきた話し合いの1コマ。

【自分たちでしたいことの実現】

「みんなはどうしたい？」5歳児の担任は、子どもたちにこう問いかけることがよくあります。もちろん、幼稚園にはカリキュラムがあり、毎年行っている行事や活動もあります。ただ、毎年同じことをするのはなく、また保育者主導で子どもが受け身になるのではなく、その子どもたちの“こうしたい”という思いが実現できるよう、先生と子どもたちで生活を創っていくことを大切にしています。



焼き芋のチケット係の子たちがアイデアを出し合い考えたチケットカウンター。年少組の子がバッジを見せると、その子のマークのついたチケットを渡してあげるシステムにしたいと試行錯誤。段ボールに開けた穴からどの子のバッジも見えるよう、年少さんから背の小さい子と大きい子を連れて来て、段ボールに開ける穴の高さを調節。これこそ『生きた知！』

「先生！自分たちで作ってみたい！」と集まって始まったスイートポテト作り！



自分のしたいことの実現に向けて取り組むのはとても大変なことです。時には、自分の思いが通らなかったり、友だちと意見がぶつかったりすることも経験します。自分とは違う価値観に出会った時どうすればよいのか…、紆余曲折の過程にこそ、本当の学びがあります。それを乗り越えていけるのは、3年間積み重ねてきた個々の遊ぶ力や友だちとかかわる力があるからです。友だちの良い所もそうでない所もまるごと受け止め、共に生活してきたからこそ、互いを認め合い、支え合いながら遊び・生活するようになります。また、これまで自分が年長児にしてもらったことが年少児に対する気持ちへとつながり、自然と受け継がれていきます。まさに子どもたちが主体となり、仲間と共に生活を創り出していくのです。自分のしたいことを実現する過程で得られた満足感や充実感は、その子の自信となり、今後の歩みを進める原動力として蓄えられていくと考えています。